



入念な手つきで次々と植樹—

緑で包もう郷土の山を

—太田山国有林で植樹祭—



5 月 No.82

市浦宮林署（鶴田行田署）は、十一日早十時から太田山国有林十四林区内で乗賣、職員ら百八にも植樹祭を行なった。

植樹祭は姓々願まれ、まず鶴田署長が「郷土を包む」とを、みんなも真剣に考え「いきたい」とあいさした。

引き続き植樹に移り、同署相内面畑でボツト育成した二年生の杉四百本を十名の縦隊面に植樹した。

現場は太田地区から約六キロの高台にあり、立地条件もよきの成育ぶりが期待される。

また、植樹のあと山火事警防会議を開き、山へ入つても火の始末は完全に行なう。

なかでも、たばこの投げ捨てはめよう、と呼びかけた。

一方、山火事を発見したときは直ちにその地域の担区なり樹林署への通報を要望した。



鳴海さん

行政相談に応じます

—相談委員に鳴海金次郎さん—

行政管理では、国民の行政に
関する苦情の相談に応じ、その解
決を手助けるため、各市町に
行政相談委員を置いています
が、本村は四月一日付でま
いの方が委嘱されました。

○鳴海金次郎「相談



真剣に話し合われた行政連絡員会議

村を住み良くしよう

行政連絡員会議

町内会の組織強化話し合う

町内会の組織を強化し村民の声
を村政に反映させるため、このほ
ど町内児童館で町内会長、行政連

（電話相内局五番）

相談は無料でも口頭、電話
手紙のいずれの方法でも可、相
談をうけた行政相談委員は、秘密
を守り親身となってお世話しま
す。

相談の内容は役所の仕事に關す
ることではありません。たと
えば、役所の仕事がおおい、不
親切だ、納得できない、ようにか
ならないものか、というきなど
ごろお悩みになっているが、不
満に思っていることなどは対象に
なりません。

員会議を開催しました。

会議には十一人の町内会長と行
政連絡員八十人が出席、村長が
「村民の考えや要求を取り入れて
行政を推進したい」とあいさつ、
四十六年に町内会条例案を作り
、それまでの連絡がなかった
機構を町内会単位にまとめ、行政
連絡員の意見や要望を町内会に一
本化し、行政に反映させることを
ねらっています。

このし重点目標は

- ①回覧板、広報等が滞れていな
いか放散する。
- ②町内、町とその他のこれ
たのを検し拒否に知らせる。
- ③取、ハエの駆除や飼う清掃
など環境浄化運動を推進する。
- ④部落行事の主催や世話役活動
に取組む。なを決めました。

なり手。気難にご利用を。

役場の勤務時間 が変更しました

五月一日から役場の勤務時間が
変更されました。

▽平日午前八時から午後五時
まで。

◎ただし、休憩時間午前八時
から十五分間、正午から二時間、
午後四時四十五分から十五分間
です。

▽土曜日午前八時から正午ま
で。

野も山も緑の季節

黒毛和牛320頭を放牧

「こども」日から午の放牧がいに始まりまし。

冬の間、各農家で飼育されてい
た牛は、この日を持ちこた
えに就く回わり、体重測定、予
防注射をすしたあ、広々し
た草原に放牧されました。

放牧された牛は黒毛百四十頭
岩井牧場百十頭、脇元放牧百十頭
二丁頭と合わせて三百二十頭に達し
ました。一月未まで半年間、各牧
場を首てられすが、年間七八
す。

○牧が鳴き来年一月から先
かけて牛が生まれます。
また、今年度は青森振興に百二
十万円を投じ採取地区牧道補修
や岩井牛舎を増築し、集牧は雄
牛を飼育するにいて十六日男育
牛を委託し農家に還元するほか、
雌牛は岩井牛と再び養育付け
振興策をはかることにしていま



実取放牧場 のどかに草食(は)む牛の群

子どもの水死事故をなくしよう

農繁期・子どもから目を離さない



野も山も草や緑を消し、野に人影をみられるようになりました。これが寂たをいふん悲しめるのはなんのいって幼い子どもの水死です。

青森では、五ヶ年間平均では、年間一八十八人も少年が水死しており、幸い市町村では十数間村の働きのかつ力によつて事故ゼロです。

しかし少年の水死の中には幼児が圧倒的に多く、例年県内では五六割くらいを占め、その半数近くは春の農繁期の事故であり、とくに田舎の五月には「百廿」にひとりの割合で水死しています。あけないうちもたは保護者の不注意によつて多いためといふ生命を失つては、このうえもなく悲しいことです。

人間は、何ともしず車、守つちらなればなません、かわいおとさんや、お孫さんを水死から守るためつてこそ守り、すすめつたさ。

○おとない所をなする

○毛地はもうらん、近へにの被、洗い場なちおとない所には、ふたをする。
防犯をす、貯水池のらへ、ふたのたのこれたては、無理者、通結して、修理してせう。

○楽しんで遊ぶ場所をいへる。

遊場を備して子どもたちが楽しんで遊べるようにしてやり、おとない所には行かないようにむむける。

○子どもから目を離さない
仕事をしながら子どもを遊ばせてやるときは、必ず目の届くところ近く、やむを得ず目の届かない老人や長年の子どもにも目をさせるべきは、うらん、話を与える。
農作業中、幼児をせむせむに寝かせておくと、きは田や畑、落ちたないうち安全確保が。



有(国・国)財であつて、地元産業振興の途程や住民福祉

市浦営林署長
鶴田行忠さん
つる た ゆ き た



掛のたにどと思」
とつりした様(う)だ
が、復活(う)で、ゆも、九
州(う)の、(う)の、
のそかせる。昨年(う)三
署長から得。青森管内は
こで三年見とい。昭和
十五年、出地(う)農
林学校(う)学(う)学
を卒業。興務めしたと秋田

地元民と密着、理解を深めたい

営林局士年、林野二年北
国での勤務が長く、すっかり
北国の人になつてしまつたとい
はす。

「市浦村の総面積の八三割ま
でが国有林が占められてい
ししたが、地元住民はそんな
の形で国有林と関つてゐる
が、それけに私達は住民と
の距離を近づけて、地域の発展」
促した。」

酒は、九と、いける口、趣
味は麻雀、囲碁も相の腕前
とか、学生時代(う)キ、柔道
もやっていた(う)ホッマン。
四十四歳。

今月の訪問

